



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



ノンVOC(Volatile Organic Compound)インキ大豆油インキの比率をほぼ100%に高めたもの。大気中への有機化合物の揮発はほとんどありません。



FSC® 認証用紙
この印刷物には、FSC® 認証用紙が使用されています。



Waterless
印刷時に有害な廃液がでない「水無し印刷」で印刷しています。

 **フジトランス コーポレーション**

2020年6月発行

本社
〒455-0032 愛知県名古屋市港区入船一丁目7番41号
TEL:052-653-3111 FAX:052-652-7110
www.fujitrans.co.jp/

 **FUJITRANS**



「和」でつなぐ人と社会

FUJITRANS

目次

Contents

- 02 CSR方針／運営体制
- 03 トップメッセージ
- 05 会社概要

法令遵守への思い

- 07 コンプライアンス強化月間
コンプライアンスアンケート調査
勉強会の実施
- 08 内部監査の実施
ストレスチェック制度の継続実施
働き方改革勉強会
弁護士相談の実施
健康セミナー・個別健康相談会

安全の追求・品質の向上

- 09 安全衛生管理体制
- 10 熱中症予防キャンペーン
「ゼロ災」キャンペーン
フォークリフト安全運転強化キャンペーン
- 11 酸素欠乏症防止キャンペーン
災害体験講習会
普通救命講習会
- 12 交通安全部会 交通安全講話会
安否確認訓練
安全・安心職場づくり報告会

環境への取り組み・地域社会とともに

- 13 新入社員グリーンオリエンテーション
足船での清掃活動
- 14 清掃奉仕活動
物品収集ボランティア
ISO環境美化活動
- 15 チャリティイベント参加
見学受け入れ
台風15号 被災地支援
- 16 児童福祉施設支援
北海道胆振東部地震 被災地支援
交通安全街頭立ち会い
- 17 2019年度CSR活動実績



CSR方針

フジトランス コーporationは、『和』の精神を社是に掲げています。「和」とは、人の和を尊重し全社的な信頼と協調を基に一致団結する「内なる和」と、地球環境・地域社会・お客さま・協力会社との調和・協和・融和を基にした「外なる和」の二つから成り立っています。

その精神のもと、社員がお客さま・地域社会とともに成長していこうという思いを込め、CSR方針を『和』でつなぐ人と社会と決めました。そして、私たちがCSRを実践すべき三つの活動領域を設定し、それぞれに分会を設けて活動を推進しています。

企業として取り組むべき領域

- 法令と社会規範を守り、常に誠実で公正な活動を行う。
- 企業は社会の一員であり、良き企業市民として成長・発展していく。

本業そのものがCSRとなる領域

- 物流事業者の使命として、安全で高品質なサービスの提供をする。

社会へ感謝する領域

- 地球環境に配慮し、快適な社会と地域づくりに貢献する。
- 社会から学んできたことに深く感謝し、社会の期待や希望に応えていく。

運営体制

CSR推進委員会

代表取締役社長

委員長・副委員長

事務局

法令遵守分会

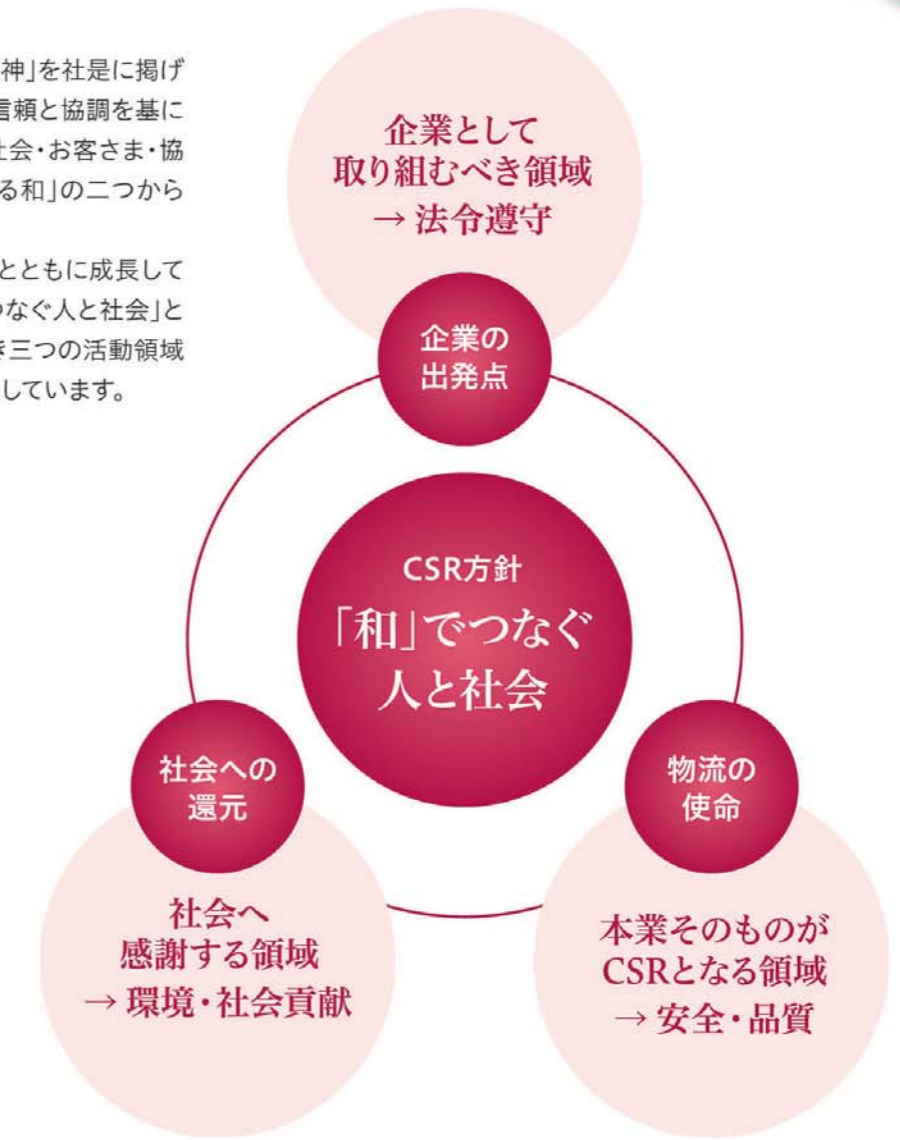
社員一人一人が法令と社会規範を守り、高い倫理観を身に付けるための教育と啓発を推進

安全・品質分会

安全作業および安全運航を目指す活動と、お客さま満足に向けた品質向上活動を推進

環境・社会貢献分会

環境・社会貢献活動の推進と参加型企画の立案および実施



トップメッセージ

10年目のCSR

代表取締役社長 系井辰夫



経営理念の下で続けてきたCSR

今年、2020年は、当社がCSRの専任組織を組成して活動を始めてから、ちょうど10年目になります。それ以前から現在のCSR活動につながるさまざまな取り組みを実施してはいましたが、CSRという概念に沿って行おうというのではなく、われわれ自身の経営理念の下、企業として成すべきことを成そうという考えからでした。

当社の経営理念とは、創業者から脈々と受け継がれてきた社是『和の精神』に連なるもので、要約すれば、社員とその家族を思いやり、地域社会に貢献し、社会から信頼される企業であり続けるという考えです。これは、正にCSRの考え方そのものです。それ故、近年になりCSRという概念が生まれ、日本企業に徐々に広がり始めた時も、われわれにとってごく自然に受け入れられるものでした。

当社がCSRに取り組み始めたのは、ちょうど中期経営計画の刷新を検討していた時期です。折しもリーマンショックの前後で、世界中の経済が悪化していました。そうした中、国内企業に浸透し始めていたCSRの概念を導入し、従来行っていた取り組みをまとめ、CSRの下で体系化しようと考えました。最初に着手したのは、専任組織を作り、全社員を対象に説明することです。説明会では、当社の理念とCSRの考え方の共通点や、今までの取り組みがCSRとどうリンクするのか、そして、社会の一員であるわれわれが個人として、法人として、今後どうしていかなければいけないかを浸透させ

ました。さらに、業務上関連する部署から選抜した代表者により、部門横断的な組織「CSR推進委員会」を設置しました。現在、当社ではCSR活動の領域を大きく3つに定義しています。一つは法令遵守、一つは安全・品質、もう一つは環境・社会貢献です。CSR推進委員会を構成する3つの分会がそれぞれの分野を担当し、年間を通じて活動を担っています。

3つの領域の取り組み

3つの領域のうち、法令遵守、つまりコンプライアンスの領域では、業務遂行に当たって熟知しておかなければならない関係法令を社員に浸透させる機能と、日々の業務が法令から外れていないか内部監査する機能の2つから成り立っています。事業領域が多岐にわたる当社グループは、港湾運送事業法、内航海運業法、貨物利用運送事業法など、さまざまな法令の下で業務を遂行しているため、従事する社員にもそれらをきちんと理解しておくことが求められます。法律の定めから逸脱することのないよう、現行法や法改正について社内で逐次勉強会を開き、浸透を図っています。これは、企業としての使命である人財開発にもつながっています。また、業務プロセスを社内で監査する独立機関として「内部監査室」を設け、グループ会社を含めて定期的に監査しています。

安全・品質の領域では、業務や現場に潜むリスクを解消し、未然に防止するための諸施策を行っています。物流業を営み、お客さまからお荷物を預かる立場として、安全と品質は使命であり、事業の土台です。起こり

うるリスクを認識し共有すること、より安全な職場環境を作ること、従業員一人一人が安全に注意して仕事に取り組むこと、それら一つ一つが現場で働く従業員の安全を守ることと同義です。そして安全な作業こそが、高品質なサービスにつながると考えています。安全な職場・高品質なサービスを維持するべく、当社では年間を通じて教育や現場巡視・訓練を行っています。また、改善活動を通じてさらなる安全を追求し、その先にある品質向上・サービス向上を目指しています。

三つ目の環境・社会貢献の領域では、事業所が根ざす地域社会や環境に貢献する活動を行っています。創業以来、当社は取引先やお客さま、地域社会の皆さまに支えられ、事業を続けてまいりました。当社を受け入れ、育ててくださったご恩に感謝し報いるために、社会の一員として貢献できることに取り組んでいます。例えば、事務所近隣の清掃や交差点での交通立哨といった地域に密着した活動から、児童養護施設の支援や昨今頻りに起こる自然災害被災地への支援など、地域貢献・社会貢献に努めています。

一方、物流事業者として船舶やトレーラーからCO2を排出する当社は、地球レベルでの環境問題にも積極的に取り組んでいます。具体的には、当社が運航する内航船団を順次代替し、燃費の向上や効率的な運航計画を図ることで、環境への負荷を低減しています。また、当社の内航海運業に縁のある北海道で177haの社有林「フジツボの森」を取得し、維持管理することで、地球温暖化につながるCO2の吸収を図っています。海や川の上流にある森林で毎年、新入社員が植樹をすることで、環境保護の重要性を実感するとともに当社のCSRの考え方を学び、人間性を育む人材育成の場としても位置付けています。

営農による貢献

環境保護に直接寄与するものではありませんが、北海道にあるグループ会社は第一次産業を営んでいます。1985年(昭和60年)にかの地に設立した(有)厚真ファームは、現在約90haの農地を所有し、ジャガイモやカボチャ、トウモロコシを栽培するほか、和牛を肥育しています。また、気候の変化と稲の品種改良により北海道でも稲作が発展していることを背景に、2009年(平成21年)から稲作を始めました。現在は、日本穀物検定協会が「基準米よりも(特に)良好な米」(特A)



と認定した「ななつぼし」を生産しています。2011年(平成23年)には、養豚事業を分社化して厚真町に(株)エフティファームを設立。独自ブランド豚「米愛豚(まいらぶた)」を生産し、食肉加工品の生産・販売も始めました。

35年に及ぶ営農により、今や厚真町で最大規模の農業生産法人となったこれらのグループ会社は、広大な農地での営農による自然環境の維持管理、安全・安心な食糧の提供、そして雇用創出の面で、環境と地域に貢献しています。

次の10年に向けて

われわれを取り巻く環境は、常に変わり続けています。日本でも今春導入が始まった5Gは、通信速度の高速化やデータ量の増大により、ライフスタイルやビジネスを大きく変えると期待されています。AI技術もますます発展し、さまざまな分野に生かされ始めています。こうした技術の発展は、われわれ物流業界にも少なからず変化をもたらすことでしょう。

一方、2019年末から急速に拡大したコロナショックは、国境も民族も越えて世界中のあらゆる地域・人を巻き込んでいます。こうした脅威を前に、誰しもが生活様式や働き方を変えざるを得ません。

このように急激に変化していく時代にあっても、10年先まで予測することは極めて困難です。しかし、激流のように押し寄せる変化の中にあっても、われわれは物流という社会にとって重要な機能を提供し続ける企業であり続けなければなりません。そのために、従来の常識にこだわらず、新技術も積極的に導入しよう、全社を挙げて取り組んでいます。

次の10年、そしてその先の未来まで。私たちは社会とともに発展し、貢献し続けてまいります。

会社概要

Company Profile

当社は1952年に名古屋市港区で創業した総合物流企業です。港湾運送事業・内航海運業を中心に海上・陸上・航空輸送、保管・在庫管理、梱包、通関など物流に関わるあらゆる事業を展開しています。特徴は、内航船舶を運航する船社としての側面を持っている点です。

設立当初は、木材の荷役を中心とする港湾運送会社でした。1960年代、モータリゼーションによる物流需要の増大を的確に捉え、1962年に我が国初の自動車専用RO/RO船「東朝丸(とうちょうまる)」を就航させることで内航海運業に進出。完成車の国内輸送分野で成長し、現在の基盤を確固たるものにしました。今日、北海道から沖縄まで国内約20拠点を有し、海陸一貫で車両・一般貨物輸送を行っています。

一方、輸出入の取り扱い範囲とサービスの拡大のため、積極的に海外展開に取り組んでいます。1977年、シンガポールで駐在員事務所を立ち上げたことから始まり、フォワーディング業務、船舶代理店業、倉庫業、梱包事業、陸上輸送などに業容を拡大しました。今では北米、欧州、東・東南アジアで物流サービスを展開しています。

これらのネットワークを駆使して、完成車(乗用車、農機、建機など)や自動車部品を中心に、農産品、衣料品、化学品、非鉄金属、木材チップなど、さまざまな貨物を取り扱っています。また、長大貨物の輸送にも精通しており、宇宙関連機器や航空機部材、プラントなど豊富な輸送実績があります。

名称	株式会社フジトランス コーポレーション
本社所在地	〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
設立年月日	1952(昭和27)年9月29日
資本金	2億円
代表者	代表取締役社長 系井 辰夫
従業員数	1,450人(2020年3月末現在)
主たる営業種目	<ul style="list-style-type: none"> ● 港湾運送事業 ● 内航海運業 ● 貨物利用運送事業 ● 航空運送代理店業 ● 通関業 ● 倉庫業 ● 梱包事業 ● 海上運送業 他

事業所一覧

(2020年3月末現在)



事業ハイライト (2019年度)

2019年4月	中期経営計画「ビジョン2021」開始	2019年度から3年間の中期経営計画「ビジョン2021」を開始しました。
	本社新社屋 竣工	本社屋を増築し、丸の内分室を集約しました。
2019年5月	「いずみ丸」就航	内航RO/RO船「いずみ丸」が就航しました。
2019年6月	小牧物流センター 開業	愛知県小牧市で物流センターを開業しました。
2019年7月	FUJITRANS (VIETNAM) CO., LTD. モータープール事業開始	FUJITRANS (VIETNAM) CO., LTD.が、ホーチミン郊外で自社モータープールを保有し、モータープール事業を開始しました。
2020年1月	FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC. 内航事業開始	FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC.が自社船舶1隻を所有し、フィリピン国内で内航事業を開始しました。
	FUJITRANS (MYANMAR) CO., LTD. ミャワディー連絡事務所 開設	FUJITRANS (MYANMAR) CO., LTD.が、タイとミャンマーの国境地帯にあるミャワディーに連絡事務所を開設しました。



法令遵守への思い

コンプライアンスはCSRの基本であり、公正な企業活動のよりどころとなるものです。当社はコンプライアンス体制の確立と維持を目的として各種勉強会や強化月間、意識調査を行い、全社員への啓発活動を推進しています。

Compliance

経営基盤の強化

Compliance

2019/9/1(日)~10/31(木)

コンプライアンス強化月間

各自で学んで法令知識を確認

一人一人が日頃の行動を見つめ直す機会として「コンプライアンス強化月間」を、毎年9月・10月に行っています。期間中は、意識を高めるため、各事業所に啓発ポスターを掲示しました。また、事務職員向けに社内ポータルサイトにコンプライアンス解説資料を掲載して確認できるようにしました。現場で働く社員には、主要な寄り場にある大型ディスプレイや各自のスマートフォンを使って、目と耳で資料を閲覧できるようにしました。



2019/11/1(金)~11/8(金)

コンプライアンスアンケート調査

社員のコンプライアンス意識の習熟を確認

コンプライアンス強化月間終了後には、全社員を対象にコンプライアンスアンケート調査を実施しました。事前に公開されたコンプライアンス教育資料の理解度を確認する内容です。

社内ポータルサイトでは、アンケート終了後に自動採点され、間違えた箇所の解説をすぐに確認することができるようになっています。

出題テーマ

- コンプライアンス ●マナー・モラル
- 労働基準法(労働時間、勤怠管理、過重労働・健康管理、労働災害)
- 労働者派遣法 ●独占禁止法 ●下請法 ●贈収賄の禁止
- セクハラ・パワハラ

年間

勉強会の実施

業務に直結した法令の教育

当社は従業員に対し、年間を通じてコンプライアンス勉強会を実施しています。誠実で公正な企業活動を継続するため、従業員が事業に関わる法令を正しく理解し、「法令」「規則」「モラル」の遵守に高い意識を持った企業となることを目的としています。

4月	新入社員向け 各種法令勉強会	内容	民法、商法、会社法、労働基準法など基礎知識の習得
5月	新入社員向け 港湾関連の事業法 商法改正講習	内容	港湾運送事業法、内航海運事業法など基礎知識の習得 商法改正に関わる業務対応について
6月	内航海運の規制と仕組み	内容	内航海運事業法、内航海運組合法などの法令について
9月	貨物利用運送事業法の概要	内容	貨物利用運送事業法の法令について
10月	港湾運送事業の概要	内容	港湾運送事業法の法令や港湾の機能・仕組みについて
11月	港湾労働法の概要	内容	港湾労働の仕組みや港湾労働者派遣事業について
12月	倉庫業の概要	内容	倉庫業法の法令について



毎月

内部監査の実施

会計・業務監査で内部統制を強化

内部監査室は、内部統制が有効に機能しているかどうかをチェックするために、組織から独立した立場で監査を実施しています。本社地区4部門、支店・出張所3部門、国内・海外関連会社6社を監査しました。結果は全て経営者に報告し、監査後もフォローアップする体制を整えています。

誠実な事業活動のために

Compliance

2019/9/2(月)~13(金)

ストレスチェック制度の継続実施

メンタルヘルス不調を未然に防止

社会的関心が高まっている心の健康管理について積極的に取り組んでいます。2016年度からは、社員自身がストレスの程度を把握し、メンタルヘルス不調となることを未然に防止することを目的として、毎年9月にストレスチェックを実施しています。2019年度は全体の88%が受検し、ストレスへの対処(セルフケア)のきっかけとなる結果表を受け取りました。今後も適正な制度運用を行い、ストレスとうまく向き合いながら働ける職場づくりを目指します。

2019/10/31(木)

働き方改革勉強会

社内講師による法令知識の共有

「働き方改革」は、働く社員が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を「自分」で選択できるように労働に関する各種法律・制度を改正することです。改正の要点や当社の対応を説明し、社員がどのような点に注意するかなどを勉強会にて周知しました。40人以上の参加があり、参加者からは改めて「時間外労働」「有給」など業務に直結する内容なので理解が深まる機会となったと好評でした。



毎月

弁護士相談の実施

専門家がコンプライアンスをフォロー

本社で月1回、法律事務所の弁護士を招いて、法律相談会を実施しています。相談会では、法令の解釈や法的リスクの早期発見、コンプライアンス体制に関するアドバイスを行っています。仕事でのさまざまなトラブルや悩み事だけでなく、社員のプライベートな案件も受け付けています。

毎月

健康セミナー・個別健康相談会

従業員の健康づくりをサポート

労働安全衛生法に基づき社員の健康を守ることは、企業の社会的責任の一つです。当社は2006年から、「健康教育の日」と称して外部から保健師を招き、「健康セミナー・個別健康相談会」を毎月実施しています。健康セミナーは「心身両面にわたる健康づくり」をテーマにしています。

実施実績

4月 ●社会人のための健康管理～元気に楽しく働くために～ 参加人数/33人
新入社員を対象に、健康管理に関する基礎的な知識の説明や、エゴグラムによる性格診断テストを実施しました。また、健康診断の結果の見方を一覧にした健康診断結果ガイドを配付しました。

5月～9月 ●働きやすい職場を作ろう 参加人数/49人 ●転倒災害予防～転びにくい体を作ろう～ 参加人数/40人

●個別健康相談会 参加人数/103人(2018年度より43人増)
定期健康診断などで医師の所見があった人や長時間労働者らを対象に、健康指導を実施しました。2019年度は相談会の回数を増やし、より多くの社員に健康指導を実施しました。



安全の追求・品質の向上

当社は安全な物流の実現のために、日々の安全教育や訓練、現場巡視による点検などの活動を欠かしません。そして、安全衛生管理体制や危機管理体制の充実を図り、大切な貨物はもちろん、従業員一人一人の安全確保に最善を尽くしています。

Safety Management

Quality Control

安全衛生管理体制

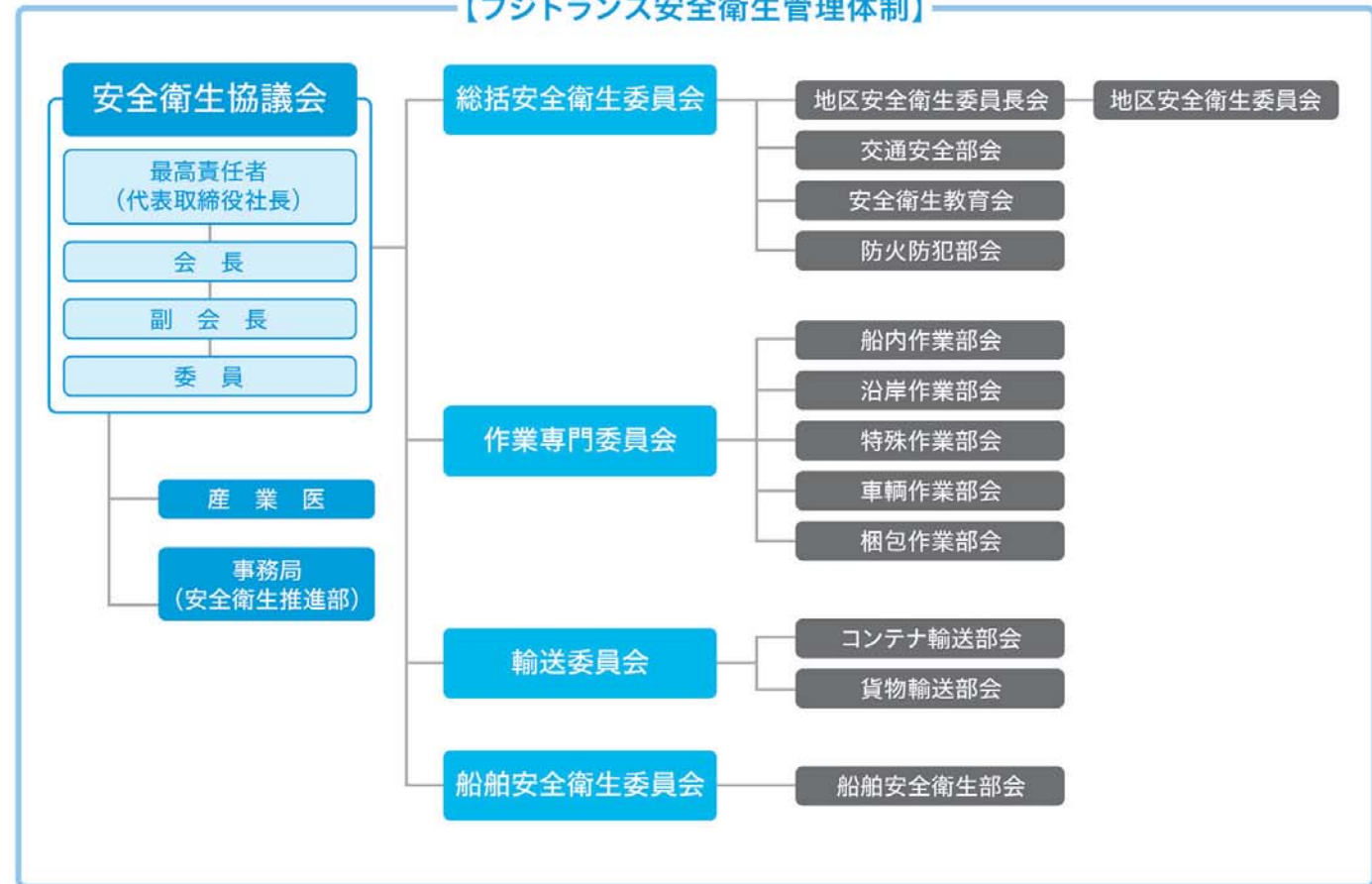
Safety Management & Quality Control

万全な管理体制を構築

安全は、総合物流企業としての重大な使命です。安全管理の徹底は、お客さまからの信頼につながり、事業全体の品質を高めることに通じます。当社では「安全」と「品質」は一体と考え、安全衛生協議会を頂点とした強固な管理体制を構築し、徹底した安全管理に取り組んでいます。



【フジトランス安全衛生管理体制】



各種安全キャンペーン

Safety Management & Quality Control

2019/05/01(水)~09/30(月) 熱中症予防キャンペーン

水分・塩分補給で熱中症対策

5月から9月までの5カ月間、「熱中症予防キャンペーン」を実施しました。このキャンペーンは、熱中症の症状や怖さを知り、定期的な水分・塩分の摂取による熱中症予防対策の浸透を図るものです。

期間中は、各支店・出張所や名古屋地区の各事業所に啓発ポスターを掲示しました。また、経口補水液や瞬間冷却剤、固形食塩(あめ、タブレット)などの暑さ対策グッズを配布しました。6月前半には、熱中症予防に関するビデオを使用し、各事業所で社員教育を行いました。



配布した熱中症対策グッズ

上期: 2019/7/2(火)~11(木) 下期: 2019/12/3(火)~12(木) 「ゼロ災」キャンペーン

全ての事故「ゼロ」を目指して

フジトランスグループでは年2回、全国の事業所を対象に「ゼロ災」キャンペーンを開催しています。このキャンペーンは、従業員一人一人の安全意識を高め、安全で安心な職場をつくることを目的とした活動です。

期間中は「全ての事故ゼロ」を目標に掲げ、経営トップ層による現場点検や各専門委員会によるパトロールを行いました。また、全従業員がキャンペーン用のワッペンやシールを身に着け、全員参加で安全意識の向上に努めました。



現場巡視で「ゼロ災」唱和



代表者によるタッチアンドコール

スローガン

- 上期 高めよう 一人一人の安全意識 総合力でゼロ災害
- 下期 職場の安全 家族の安心 災害ゼロは みんなの願い

2019/09/09(月)~18(水) フォークリフト安全運転強化キャンペーン

安全作業の技術を競う

当社グループの作業専門委員会が「フォークリフト安全運転強化キャンペーン」を実施しました。このキャンペーンは、事故対策の徹底と教育・訓練による事故の再発防止を目的に、毎年行っています。

最終日の9月18日には金城ふ頭で、フォークリフト運転従事者を対象に技能競技会を行いました。役員・部門長が技能だけでなく安全装具の着用状況、事前確認の徹底、作業の正確性など幅広い項目を審査しました。各職域から選抜された代表者7人は、日頃の作業で培った技能を競い合いました。



フォークリフト技能競技会の受賞者



安全を確認しながらコースを走行

2019/10/16(水)~25(金)

酸素欠乏症防止キャンペーン

事故の再発防止に努める

木材チップ船での荷役事故対策の徹底と事故の再発防止を目的に、「酸素欠乏症防止キャンペーン」を実施しました。キャンペーンでは、垂幕やポスターを各所に掲揚したり、映像教材で現業員に教育したりして啓発活動を行いました。

11月8日にはキャンペーンの一環として、救出訓練を行いました。チップ船の船内で現業員が酸素欠乏症になったと想定して、救護班を編成し、要救助者に見立てたマネキンを使用し訓練しました。現業員は、緊急事態に備えて各自の役割を確認することができました。



速やかに救助訓練をする現業員



本船前でゼロ災唱和

安全教育・訓練

Safety Management & Quality Control

2019/9/26(木)

災害体験講習会

体験を通して防災意識を高める

災害をより身近に感じてもらうことを目的に、BCP統括本部が名古屋市港区にある名古屋市港防災センターで社員向け災害体験講習会を開きました。参加した代表者22人は、地震発生時の身の守り方や、揺れが収まった後にやるべき行動について指導を受けました。

震度7クラスの地震を体験することができる地震体験室では、激しい揺れに耐えられずテーブルの下に身を隠していました。また、1959年に発生した伊勢湾台風の様子を3D映像で体感できるコーナーや、火災発生時の煙の特性と避難方法を学べる「煙避難体験」コーナーで、さまざまな災害を体験し、防災意識を高めました。

この講習会は定期的に行い、多くの社員が参加できるようにしています。



震度7クラスの揺れを再現できる地震体験室



実際に揺れを体験

2019年10月2日(水)

普通救命講習会

体験を通して応急手当を学ぶ

急病や事故で心肺停止になる人が社内で発生する場面を想定して、本社で普通救命講習会を行いました。講習会には名古屋市消防局 応急手当研修センターの指導員を講師としてお招きし、AED(自動体外式除細動器)の操作方法や人体模型を使った胸骨圧迫・人工呼吸法を学びました。各社・各部門から参加した代表者30人全員は、交代で実機を使い、体験しました。

また、講師から「一秒でも早く応急手当をすることが重要」と説明を受けた参加者は、各事業所のAEDの位置を確認していました。



胸骨圧迫を実践する受講者

2019/11/28(木)

交通安全部会 交通安全講話会

「安全セルフ診断」で自己分析

交通安全部会が、グループ社員の交通安全意識の向上を図り、事故防止につなげることを目的に、交通安全講話会を行いました。毎年、社外から講師をお招きし、グループ会社を代表して多くの社員が参加しました。

今回のテーマは「安全運転を目指して」です。講演では、交通事故と密接な関係にある性格特性を自分で見直すための「安全セルフ診断」を行いました。参加者は、自己分析で自分の性格を把握し、運転にどのような傾向があるかを知り、安全運転のための注意点を確認しました。



診断に沿って自分の性格特性を確認する参加者

2019/12/26(木)

安否確認訓練

万が一に備えて連絡体制を確認

国内対策部会が、国内のフジトランスグループ全社員を対象に安否確認訓練を行いました。この訓練は、震度5以上の地震や、台風・テロ・放射能漏れなどの大規模災害が発生した場合に社員の安否を速やかに確認するためのものです。

訓練は、南海トラフ沖でM7.9の地震とそれに伴う津波が発生したという想定で行われ、メールアドレスを登録している社員に安否確認のメールを送信しました。メール送信後3時間で、ほぼ全ての社員から応答があり、迅速な連絡体制が確認できました。



タブレットで安否状況を確認する国内対策部会のメンバー



訓練では南海トラフ沖地震を想定

2020/02/19(水)

安全・安心職場づくり報告会

より安全な職場を目指す

安全衛生推進部の主催で、「安全・安心職場づくり報告会」を行いました。この会合は、職場に潜むリスクを解消し、より安全に業務を遂行するために各事業所が1年間取り組んできた成果を報告するものです。今年度は、全51事業所を代表して13拠点の代表者が取り組みを報告しました。各現場の性質に特化した取り組みや、他の事業所にも横展開できそうな取り組みが紹介され、さらなる活動推進に向けて情報共有する機会になりました。



代表者が各事業所の取り組みを報告

環境への取り組み・地域社会とともに

Social Action

当社を育てていただいた社会・地域、そこに住む人々に貢献することは、当社のCSRの根源です。環境方針を策定して社員の意識を高め、当社にとって事業を支える大切なフィールドである港や海で、地球環境に配慮した活動を行っています。

Environment Protection

環境保全活動

Environment Protection & Social Action

2019/7/17(水)~19(金)

新入社員グリーンオリエンテーション

自然環境の大切さを学ぶ

毎年、新入社員研修の一環として、北海道でグリーンオリエンテーションを行っています。この研修は、植樹体験を通じて当社の環境保全活動を理解し、環境の大切さを学ぶことを目的としています。当社取締役引率のもと、新入社員ジェネラリスト28人が参加しました。

初日は、農業・畜産を営むグループ会社の(有)厚真ファームで事業説明を受けました。

2日目には岩内郡共和町にある社有林「フジツボの森」で地元森林組合のご協力のもと、ハルニレ70本を植樹しました。植樹後には、新入社員がこれまでの研修を通して考えた、新たなCSR活動のアイデアを班に分かれて議論し、それぞれの意見を発表しました。



ハルニレを植える新入社員



植樹を終えての記念撮影

2019/11/14(木)

足船での清掃活動

名古屋港をきれいに

社会貢献活動の一環として、CSR推進委員会環境・社会貢献分会のメンバーと各事業本部の代表者計9人で足船清掃活動を行いました。

自社船舶「ふじとらんす」(通称「足船」)に乗って、九号地分室のあるBQ2岸壁やQ2岸壁付近で、タモ網を使って海面に浮かんだゴミを拾い集めました。ゴミの浮遊量は想定より少なかったものの、川上から流れてきたペットボトルや生活ゴミを回収することができ、私たちが働く名古屋港をきれいにすることができました。



清掃活動の参加者



岸壁付近を清掃

社会貢献活動

Environment Protection & Social Action

2019/4/14(日)、7/7(日)

清掃奉仕活動

境内の清掃で地域に奉仕

福井県勝山市の平泉寺白山神社で清掃奉仕活動を行っています。平泉寺白山神社は「苔寺」とも呼ばれ、境内は一面に緑のじゅうたんが敷かれたような美しい景観を作り上げています。

毎年、春と夏に執り行われる大祭に合わせ、当社役員をはじめ各部代表者が、木くずや落ち葉を集め、社務所周りを清掃しました。



清掃活動を行った参加者



苔がよりきれいに見えるようになりました

2019/6/19(水)~2020/3/23(月)

物品収集ボランティア

身近なものが大きな支援に

当社は、業界団体が積極的に参画している「リサイクルという、応援のカタチ。」活動に賛同し、社員から使用済み切手、不用携帯電話、不用パソコンを集めました。

使用済み切手は業界団体が集計された後、日本赤十字社に寄付されました。回収された不用携帯電話と不用パソコンは、東京オリンピック・パラリンピックの入賞メダルの原材料として活用されます。また、リサイクル後の資源売却益の一部がスペシャルオリンピックスへ寄付されました。回収されたパソコンの解体には多くの知的障がいのある方が携わり、雇用につながりました。

収集結果〈フジトランスグループ合計〉

収集物品	実績
使用済み切手	1,655kg
不用携帯電話	22台
不用パソコン	13台

2019/7/16(火)

ISO環境美化活動

お祭りの後の清掃活動

本社地区周辺で毎年開催される「海の日名古屋みなと祭」の翌日に、本社ISO環境美化活動の一環で清掃活動を行いました。今年は名古屋港管理組合の清掃活動に参加する形で、作業エリアを分割して実施しました。

当日は朝から気温が高く、猛暑日でしたが、参加した各部代表者は汗だくになりながらも、自主的に当初予定していたルートより広範囲を清掃しました。



清掃活動の参加者

2019/8/18(日)

チャリティイベント参加

陸前高田市の復興を目指して

陸前高田市復興交流チャリティイベント「がんばっぺし 2019(旧・築港祭)」が名古屋港ガーデンふ頭 つどいの広場で開催され、CSR推進委員会 環境・社会貢献分会がバザーを出店しました。このイベントは、東日本大震災で被災した陸前高田市の復興支援を目的に2011年から毎年開催されています。



社員から寄せられた100点以上の物品を販売

当社は去年に引き続き2回目の出店となります。

バザーには、社員から食器、洗剤、酒、タオルなど善意の物品が多数集まりました。35℃を超える猛暑の中、来場者や他の出店者に販売して得た収益金21,504円は、がんばっぺし実行委員会を通じて陸前高田市へ全額寄付しました。



猛暑の中、出店した分会メンバー

2019/10/3(木)~2020/1/29(水)

見学受け入れ

物流について学ぶ

10月から1月にかけて、小学校4校、中学校1校、大学1校が見学会に訪れました。2019年度は約240人の児童・学生が来社しました。

児童らは当社の事業説明を受けたり、バスに乗って現場を

見学したりして貨物の流れを学びました。また、停泊していた自社船舶に乗船できた児童らは、船員から船の構造や船員の仕事を教わりました。



元気にクイズに答える小学生児童ら



乗船見学する小学生児童ら

2019/10/31(木)

台風15号 被災地支援

義援金とオークションの収益金を寄付

2019年9月に発生し、関東に上陸した「令和元年台風第15号」により、千葉県南部を中心とした地域が甚大な被害を受け、当社の関東の取引先も被災されました。これを受けて、当社では日本赤十字社を通じて被災地に義援金200万円を贈呈しました。

また、募金活動として、社内収蔵品を社員向けのチャリティーオークションに掛けました。そこで得た収益金129,800円も、全額寄付しました。

児童福祉施設支援

2019/11/10(日)・12/25(水)・2020/2/28(金)

バルーンショーを贈呈

名古屋市児童福祉センター内にある中央療育センター すぎのこ学園・みどり学園のお楽しみ会と、同センター わかくさ学園で行われた卒園生・退園生を送る会にバルーンショーを贈呈しました。

当社は毎年、同センターにクリスマスケーキをお届けしています。子どもたちは、風船職人が音楽に合わせて次々に作り出すバルーンの作品に、歓声を上げて喜んでいました。



お楽しみ会の様子



バルーンショーに歓声を上げる子どもたち

2019/12/12(木)~12/26(木)

クリスマスケーキを贈呈

地域社会との交流活動として、児童福祉施設にクリスマスケーキの贈呈を行っています。今年は合計6カ所の児童福祉施設にクリスマスケーキやパンなどを贈呈し、施設のクリスマス会に役立てていただきました。ケーキを嬉しそうに受け取る子供たちの笑顔を見て、お届けした社員も笑顔になりました。



クリスマスケーキを施設の職員に手渡す当社社員

2019/12/19(木)

北海道胆振東部地震 被災地支援

地震被害の厚真町への貢献で紺綬褒章

2018年9月に発生した北海道胆振東部地震によって被災した厚真町に義援金を寄付した功績により、紺綬褒章を受章しました。紺綬褒章は、公益のために私財を寄付した個人や団体に対し、国から授与される褒章です。

受賞を伝達するため当社を訪問された厚真町の近藤副町長は、系井社長に褒章を手渡し、支援に対する謝辞を述べられました。



近藤副町長(右)から賞状を授与される系井社長

毎月

交通安全街頭立ち会い

交通事故ゼロを目指して

交通安全部会が主体となって、本社地区、築地口地区、九号地地区、金城地区の交差点で、朝の通勤時間に合わせて交通街頭立ち会いを行っています。毎月、グループ会社を含む各部の代表者が参加し、シートベルトの着用や交差点での一旦停止など、交通マナーの徹底を呼びかけました。

街頭立ち会いは、交通事故死ゼロの日(0が付く日)に合わせて毎月実施しています。



のぼり旗を掲げて交通安全を呼びかけ

1 森を守る活動

●フジップの森 植樹活動

	(本)		
	造林	環境教育他	計
2016年度	0	70	70
2017年度	10,220	70	10,290
2018年度	4,640	70	4,710
2019年度	0	70	70



2 海を守る活動

●足船での清掃活動



4 地域貢献活動

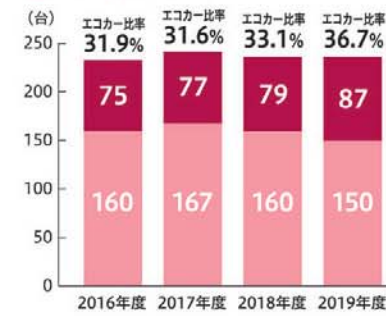
- ISO環境美化活動
- 児童福祉施設支援
- チャリティイベント参加
- 見学受け入れ



- 清掃奉仕活動
- 物品収集ボランティア
- 交通安全街頭立ち会い

3 省エネ活動

●社用車に占めるエコカー比率の推移



●電気使用量の推移



●ガソリン・灯油・軽油使用量の推移



●LPG使用量の推移



●A・C重油使用量の推移



5 安全品質のための活動

●「ゼロ災」キャンペーン



●酸素欠乏症防止キャンペーン



●普通救命講習会



- 熱中症予防キャンペーン
- フォークリフト安全運転強化キャンペーン
- 災害体験講習会
- 交通安全講話会
- 安否確認訓練
- 安全・安心職場づくり報告会

6 法令遵守の活動

●勉強会の実施



- コンプライアンス強化月間・アンケート調査
- 内部監査の実施
- ストレスチェック制度の継続実施
- 働き方改革勉強会
- 弁護士相談の実施
- 健康セミナー・個別健康相談会